



— 私の履歴書 —

丸井重機建設(株) 代表取締役社長 丸井 靖弘

今回は事務局が東京にご出張中のご多忙な丸井社長にお会いしてインタビューしました。



丸井靖弘(まるい やすひろ)

昭和13年10月6日青森県生まれ
昭和33年丸井建設(株)入社
昭和41年丸井重機(株)創業
代表取締役社長に就任
昭和44年青森生コン(株)創業
昭和47年ホテルサンプラザ創業
昭和48年丸井建設(株)と
丸井重機(株)が合併
昭和61年丸井重機建設(株)
代表取締役社長に就任

スポーツを通して認識したことは、チームワーク、礼儀、体力、勇気等である。これは会社経営にも共通する。

■社会に出て

昭和33年に丸井建設(株)に入社、現場代理人、後に砂利採取プラントの工場長、砕石工場工場長(27歳)を歴任。当時の顧客、ダンプの運転手だった人が現在建設業建材業の社長に成長、これが、公私両面に渡る社長の大切な財産のひとつ。父親の仕事を手伝うようになり、父、母、兄達の苦勞を見て「これではだめだ!」業界でも上位に行こうと決心し、努力した。持前の頑張りによる努力は尋常ではなかった。誠実な人柄と仕事への情熱で、顧客の信頼を得た。

■会社の歴史

誕生：昭和24年丸井組として土木工事請負業、砂利採取業を丸井寅次郎代表からの出発。昭和27年丸井建設株式会社に改組。

転換：昭和48年丸井重機株式会社と合併し丸井重機建設株式会社に社名変更、重機建設専門会社として出発。

発展：昭和53年～平成11年大型パイルドライバーD508-95M(当時国内最大機種)導入・岩盤掘削、ロックオーガ工法導入・拡底工法機ED5500導入・大口径岩盤掘削機CD2000導入・超大型パイルドライバーDH808-170M(国内最大級)導入・岩盤掘削機ドーナツオーガSDA-300IWP導入・大口径岩盤掘削機CD1500導入等、技術を極めて新工種に挑戦。

結実：平成11年度、青森県「建設業」完成工事高第1位に躍進。引き続き平成13・14・15・16・17・19年度も青森県「建設業」完成工事高第1位で堅実な企業に。20年度も第1位に躍進を目指す。

進化：平成14～平成19年鋼矢板・鋼管矢板圧入引抜機鋼管チルトパイラーWP-150P導入・ISO9000及びISO14000認証取得・地中埋設物撤去工法(ヒロワーク)導入・岩盤掘削機ドーナツオーガSDA-390HWP導入等新た

■郷里・幼年時代・学生時代

東に天然記念物ウミネコの繁殖地蕪島(かぶしま)、西に透明度15mの湖水美をもつ十和田湖と千変万化の躍動感溢れる奥入瀬(おいらせ)溪流、南に高山植物の宝庫である大湿原をもつ八幡平(はちまんたい)、北に冬の樹氷と山岳スキーで有名な八甲田山をもつ景勝の地、十和田市で農家の三男として生れた。

全くの田舎で「春になれば氷がとけて、田んぼの周りでどじょっこだのふなっこだの…」とあそぶ。

また唱歌故郷(ふるさと)の歌詞「うさぎおいしかの山、こぶなつりしかの川…」の世界で、見渡す限りの田んぼと山また山の田園風景の中で育った。

子供の頃からの将来の夢一筋に今日までできたのは、育った家庭環境の影響と思われる。

高校時代にラグビーを2年間。

な新工法に挑戦。

■経営

当社は3部門で構成。「建築部門」は建築物の企画、設計、施工。公共建築・一般住宅・ホテル・マンション・事務所等。「土木部門」は土木工事の設計、施工。河川・海岸・道路・舗装・砂防・橋梁・下水道等。

「基礎工事部門」は基礎工事の設計、施工。既製杭・場所打ち杭・岩盤削孔・地中障害物撤去・既存杭引抜・深層混合地盤改良・地中連続壁・土留杭等。経営理念：「わが社は和を基本理念とし信用と技術を提供する」。

社是：「勇氣・決断・実行」。

重大基本方針「無事故・無災害完工。コストダウンの徹底。全社一丸」。

平成20年度スローガン：「再び地域“No.1”に挑戦。積極果敢。全社営業。品質・技術力の向上。社会への貢献」。

■社員とのコミュニケーション

「部下はリーダーの背中を見て、行動する」。後進の育成は、日々の業務の中で、リーダーが部下ひとり一人に対して、技術力・競争力のレベルアップを図るOJT方式により、次の世代を支える技術者の教育を行なっている。

■信条・趣味

若い時は仕事も「虎穴に入らずんば、虎子を得ず」の気持ちでやってきたが、最近は社会情勢をふまえて「忍耐」の一言に納得。

姓名学による鑑定では、“宿命的運・才能・人柄・姓と名の調和”が大古。優れた才能と知力。強い責任感を持つ堅実な人。積極的な行動力。強い独立心。誠実温厚な人柄。思いやりの強い明るい人。優れた審美力をもつ人とか。

趣味は、原産地日本だけでなく欧米でも熱心なファンがいる「錦鯉」の飼育に30年の経験をもつ。

好きな種別は紅白(白地に赤色模様)、昭和三色(黒地に赤色・白色模様)、大正三色(白地に赤色・黒色模様)。大きいのは黄金(単色金色)の95cm、緋写(黒地に赤色模様)の1m近いもの、大正三色85cm等、大小40匹を飼育。

「錦鯉」の全国大会品評会に出品している。(10月7日～9日、全日本愛鱗会新潟大会(小千谷市))

ゴルフはハンディ15。優勝カップは10個位。日本画と趣味も多彩。

■今後の展望

公共建設市場の縮小で、地方の企業は厳しい収支状況に置かれている。

会社の信用・工事の受注等は営業力は勿論、社員ひとり一人の、ひとつ一つの仕事の積み重ねが根を張って、大輪を咲かせることを念頭に行動している。

建設業の不変の原則は「無事故、無災害・顧客が安心できる品質・コスト・生産性・工期・適正な利潤」と考えられる。この目標を達成するために、全社員が一致協力して今後も努めていく。完成工事高について、建築部門を高め、建築部門25%、土木部門25%、基礎工事部門50%を目指していく。多様化・高度化する顧客のニーズに応じて、社会的責任を果たせる企業へと成長を図っていく。

激務ゆえ健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田誠作)